

事務事業名	プログラミング教育推進事業					事務事業No.	511 - 16					
1. 基本情報												
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名						
教育部	学校教育課	指導係	主任	塩川 睦美	課長	吉村 浩一						
施策体系	総合計画	政 策	5	教育・文化								
		施 策	1	人権を尊重する豊かな心・健やかな体を育む教育の推進								
		基本事業	1	生きる力を育む教育の推進								
	その他の計画	個別計画	-									
根拠法令・条例・要綱等	-											
事業開始年度	平成30年度	事業終了年度	令和7年度	事務事業類型	ソフト事業							
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	令和5年度～令和7年度							
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）												
概要	本事業は、飯塚市プログラミングモデルカリキュラムに基づき、小・中学全校でプログラミング教育を確実に実施できるようにするもので、プログラミングの体験を通して「プログラミング的思考」を含めた「情報活用能力」の育成を目指す。 Pepperを活用したプログラミング教育の実施と、小学校理科の単元で例示されているプログラミング学習教材及び中学校技術科のブラウザ完結型プログラミング学習教材による学習の充実を図る。											
対象	働きかける相手・もの	市内小中学校の教員、小学5年生～中学3年生の児童生徒										
手段	方法・働きかけ（活動指標）	プログラミング学習教材を活用したプログラミング学習の実施										
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	プログラミング学習教材を活用したプログラミング学習により論理的思考力の育成を図る。										
3. 活動指標（決算成果説明書と運動）												
指標名		単位	指標の説明（算式等）		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
プログラミング研修会の実施		回	プログラミング研修会の実施回数（教員向け）		2	1	1					
プログラミング講座の実施		回	プログラミング講座の実施（児童生徒向け）		1	6	4					
プログラミングコンテストの実施		回	プログラミングコンテストの実施		1	1	1					
4. 成果指標（決算成果説明書と運動）												
指標	プログラミング学習教材を利用して授業を実施した学校の割合	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		%	100%	目標値	-	100%	100%					
説明	中学校技術・家庭科の「D-2 ネットワークを利用した双方向性コンテンツ」の授業の実施率	方向性	達成目標年度	実 績	-	80%						
		増加	令和7年度									
指標	プログラミング教育のレベルが2以上の学校の割合	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		%	100%	目標値	100%	100%	100%					
説明	毎年実施の「教育の情報化に係る調査票」における学校からの回答（レベル0～3の4段階で回答）	方向性	達成目標年度	実 績	80.00%	100%						
		増加	令和7年度									
指標	考えを伝えるときや問題を解くときに、筋道や順番に気を付ける児童生徒の割合	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		%	80%	目標値	80%	80%						
説明	全国学力・学習状況調査の質問紙の質問に対する肯定的な回答	方向性	達成目標年度	実 績	54.70%	55.35%						
		維持	令和7年度									
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）												
経費区分	一般会計	政策的経費			特別会計	-						
予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	10	教育費	項	2	小学校費（3項 中学校費）	目	2	教育振興費
	大	99	その他の教育振興費	中	36	プログラミング教育推進事業費【政策】	他	1	事業			
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)		前年度実績 (千円)		本年度実績 (千円)		増減理由 (10%以上の場合)		次年度予算 (千円)			
	正職員		0.44	人	3,497	0.43	人	3,502	0.21	人	1,711	
	任期付職員(保育士)		0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(子ども家庭支援員)		0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(CW・水質)		0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用フル		0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用短		0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	合計年度		1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0
		1級パート	0.05	人	105	0.05	人	132	0.05	人	132	
		2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
人件費計 (A)		3,602		3,634		Pepper借上台数の削減及びプログラミング研修業務委託を廃止したため。		1,843				
事業費	直接事業費 (B)		8,795		3,497		2,993					
	総事業費 (A+B)		12,397		7,131		4,836					
直接事業費のうち		使用料及び賃借料		3,210		3,439		2,913				
の主な歳出内訳		委託料		2,328		0		0				
財源内訳	使用料・手数料 (受益者負担分)		0		0		0					
	国・県支出金		0		1,323		0					
	市債		0		0		0					
	一般財源		12,397		5,808		4,836					
	その他 ()		0		0		0					

6. 事務事業の事後評価★			
評価視点		評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価		高い	令和2年度から小学校で必須となったプログラミング学習と内容が拡充された中学校での学習（技術分野）を効果的に支援できる事案であり、市内全小中学校対象の事業であるため。
効率性 評価		やや高い	Peeper以外のプログラミング教育コンテンツを活用することで、Pepperの台数を見直すことにより、コスト削減が可能である。
有効性 評価		やや高い	市内の小中学校において、全校で同水準のプログラミング教育を行うためにも有効な事業であり、学習の目的を達成するためにも有効な事業である。
7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	小学校、中学校の現場に即した内容に見直し、研修会を実施する。プログラミング教育モデルプランの内容について周知し、児童生徒のスキルに応じた指導ができるように教員の研修会を実施する。
	現状維持		
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	プログラミング教育を充実するため、児童生徒を対象とした講座の実施を計画する。プログラミングコンテストの必要性を再検討し、様々な教材（ツール）に対応できるような内容や方法へ見直すことで、幅広く児童生徒が参加できるようにする。
	縮小		
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入			
・プログラミング教育モデルプランに沿った研修を実施できた。また、研修会のライブ配信により参加者を増やすことができた。 ・中学校技術科の学習指導要領に対応したプログラミング教材を導入し、技術科の教科教育研究会で授業交流が実施できた。 ・プログラミングコンテストの見直しを行い、経済部の既存事業に小中学生の部を新設してコンテストを実施することができた。			
8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★			
〔成果〕	・プログラミングコンテストの見直しにより、学校を単位とした参加ではなく、得意な児童生徒や感心のある児童生徒が、自分の意志で参加できるコンテストにすることができた。また、児童生徒の学習の成果を発表する機会を創出することができた。		
	〔課題〕 ・中学校でのプログラミング教育を充実させるため、中学校技術科の教科教育研究会との連携が必要。 ・経済部の既存事業で実施する場合、応募者の作品受付の業務が煩雑となるため、再度検討が必要。		
9. 今後の事業の方向性と改善策			
成果の方向性		〔理由〕 小学校でプログラミング教育が必修であり、中学校では技術家庭科（技術分野）のプログラミングの内容が拡充されており、プログラミング教育の重要度は高まっているため、今後もプログラミング教育の充実が必要である。	〔理由〕 Pepperの台数やプログラミングコンテストの実施方法の見直しを行っており、現時点におけるコスト（直接事業費）削減の余地がないため。
現状維持			
コスト投入の方向性		〔理由〕	
現状維持			
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★			
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策		コンテストの実施について、民間企業が実施するコンテストとの共同実施等を検討し、応募者の作品受付業務の負担を軽減する。	
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策		高校普通科で必修化された「情報Ⅰ」へのスムーズな接続や学校間格差を是正するためには、中学校技術科の学習指導要領に対応したプログラミング教材を継続して利用する必要がある。	
評価変更理由	成果の方向性	プログラミング教育は今後も重要であるため。 無償で開催できるコンテストの実施や、経済部との連携したコンテストの継続により、コスト削減に努めること。	
	現状維持		
	コスト投入の方向性		
	現状維持		